

第31回精神科作業療法集談会のご案内

期 日 2024年5月18日(土)～19日(日)

場 所 八王子セミナーハウス (<http://www.seminarhouse.or.jp/>)
〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1 TEL:042-676-8511

参加定員 30名(定員にて締め切ります)

参加費 ①セッションのみ参加 4,000円(どちらかのみ参加でも同一料金です)
②セッション+懇親会 7,000円
③セッション+懇親会+宿泊 13,000円(朝食代込)

懇親会 5月18日のセッション後、八王子セミナーハウスにおいて懇親会を開催します。

参加申込 ・下記のQRコードまたはURLからPeatixでお申し込み、参加費のお支払いをお願いします。Peatixのご利用が難しい場合は、お手数ですが個別にお問い合わせください。
・参加者が定員になり次第締め切りますので、出来るだけお早めにお申し込み下さい。
(**締切り：5月8日** それ以降にお申し込み頂く際は、事務局までご連絡ください)
・なお、会場予約の関係上、申込み後のキャンセルは上記の参加費を請求させていただきます(欠席の場合は、他の方の代理参加でも結構です)



<https://peatix.com/event/3857509>

問い合わせ 事務局：NPO法人おれんじはあと さんすてっぷ 鈴木一広
TEL：042-516-9970 E-mail：kazuhimosuzuki0313@gmail.com

世話人 水野高昌(医療創生大学、代表世話人)、 奥原孝幸(神奈川県立保健福祉大学)
加藤 祐(就労移行支援NEXT STAGE)、 小亀晶子(訪問看護ステーションHANA)
藤田純司(誠心会 神奈川病院)、 村岡和也(横浜市総合保健医療センター)
鈴木一広(さんすてっぷ)

スケジュール

5月18日(土)		5月19日(日)	
13:00～13:20	受付	9:30～11:40	セッション3
13:20～13:30	事務連絡	11:40～11:50	次回への希望等の確認
13:30～15:40	セッション1	12:00	終了
16:00～18:10	セッション2		
18:30～20:30	夕食会を兼ねた懇親会		

<話題提供の要旨>

【セッション1：「最近の実習について思う事」】

話題提供者：片岡 圭美（医療法人社団 綾瀬病院）

コロナも落ち着き、昨年ごろから実習を再開した現場も多いのではないのでしょうか。テーマを事務局からいただいて、様々な思いがわいてきました。昨今の実習を受ける側の問題や指導する側の問題、クリニカルクラークシップ、大きなところで作業療法士の未来??などなど。思いは色々ありますが、現実を振り返ると、学生も指導者も四苦八苦しなながら、実習期間を終了するという現状があるように思います。実習を受け入れるなかで、様々な予測しなかった事態が起こり、指導者が現場で対応する精神的な余裕が減るようなときがあります。実習の在り方や対象者への向き合い方を考えていくうちに、私自身が指導者に向いていないと考え、実習の受け入れを止めようと考えた時期もありました。しかし、現在でも学生を受け入れているのは、真摯に実習に向き合う学生と出会える時があるからだと思います。

集談会は本音が話せる場だと思いますので日ごろの思いだけでなく、学生を通して客観的に評価されている私たちの事について、皆さんとお話するきっかけになれば幸いです。

【セッション2：「共に創る実践：これまで行ってきたこと、これから行うとよいことを共有しよう」】

話題提供者：川口敬之（国立精神神経医療研究センター精神保健研究所）

昨今、研究界隈では、患者や市民の立場による研究への参画が推進されている。これまで、人の健康や幸福に向けて、研究者や専門家がもつ「専門知」から重要とされた事象によって様々なサービスが構成されてきたが、患者や市民が生活を営む経験によって見出された「経験知」を包摂していこうとする動きである。また、研究者が研究の主体であり、受益者として患者や市民がいる構図であったが、患者や市民が研究の主体となる当事者主導研究も展開されるようになってきている。このように、患者・市民参画、当事者主導研究といった研究における共同創造やエンパワメント（権限委譲）のパラダイムが発展してきている。作業療法の現場では、どうだろうか。患者や利用者が権利を回復すること、本人の人生や生活の主体であるという感覚を再び取り戻すことを実現するためには、提供する／される関係を見直し、具体的な行動を起こすことが求められる。共同創造やエンパワメント（権限委譲）の実践は容易ではないが、我々がどのように行動を起こすとよいか、実践してきたか、共に考え共有する機会としたい。

【セッション3：「グループホームにおける私の失敗」】

話題提供者：鈴木一広（グループホームなんがい／さんすてっぷ）

一昨年のアンケートで、今後の研修テーマ希望に「失敗談を聞きたい」と書いてくださった方がおり、私の最大の“失敗”を語る場を頂きました。

私は、期限付きのグループホームに勤務しています。対象者は7名、いわゆるアパートタイプで、職員は常勤1人、非常勤2人という体制です。ある一人の対象者の不調に上手く対応できなかったことで、問題が雪だるま式に膨れ、グループホームの存続を脅かすまでに発展したエピソードをお話しします。要因を一言でまとめれば私の能力不足ということになりますが、地域住民とのかかわり方、当時の社会的な背景（相模原障害者施設殺傷事件）、制度上の課題、医療機関との連携の在り方を考えさせられる経験でした。

私にとっての臨床は、そのほとんどが後悔と反省に満ちたものです。学会等で見聞きする報告は、キラキラと希望に満ちた素敵なものが多いのですが、皆さんの日々の臨床はどうでしょうか。

今回は、日々の臨床、精神科の作業療法について皆さんとお話し出来たらと思っています。

精神科作業療法集談会について

本会は作業療法士の有志による研究会です。会員制をとらず、毎回の集談会ごとに参加者を募る形で進めています。

1994年の秋田県での作業療法学会で第1回目の会合を持ちました。作業療法士である私たち自身が、『精神科作業療法や関連する精神医療の様々な事柄』について、相互に検討していく場を作りたいということが発足の主旨です。第2回目以降は毎年1回1泊2日で開催し、話題提供者を3~4名決め、各々の話題提供の内容に沿って、相互に検討を行う形をとっています。

今回初めて参加される方へ

当集談会は、相互研修の場です。したがって講師と受講生という形で行われるのではなく、話題提供者にそのテーマについて討論の視点を提起していただき、それをもとにお互いの経験や知識、考えを出しあって討論することになります。そしてそうした討論の中から、参加者各々が何かを学びあってゆく機会が持てるようになります。

初めて参加される方は、こうした流れにとまどいを感じるかもしれません。あるいは討論の内容に理解がついていけないこともあるかもしれませんが、無理に発言を求められることはありませんので、討論を聞いているだけでもよいというつもりで気楽に参加してください。

また日常の仕事の中で感じている疑問や困っていることなどについて、セッション中の討論で具体的に意見や助言を求めることは無理がありますが、休憩時間や懇親会の時には遠慮なく出してください。その時には、自分の職場状況の具体的なことを話すことも出来ます。同様の経験を持っている人が、意見や助言をくれることでしょう。

この機会にいろいろな作業療法士の方と知り合いになることをお勧めします。